

■ 編集委員

菅澤 正 (編集委員長)

海老原康博 片桐 岳信 小林 国彦 篠塚 望 千田みゆき 名越 澄子

堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey (五十音順)

■ 編集後記

Covid-19 第6波も、漸くピークアウトの兆しが見えてきました。症状は軽い症例が大半ですので幸いですが、身近の病棟スタッフ、医局員などに陽性者が出てきており、より身近な疾患になりつつあります。私は耳鼻咽喉科医であり、外勤先で発熱者や上気道炎症状の患者を検査すると、ピーク時は半数以上の方が陽性となっており、報道される陽性者の数倍の感染者がいるのではないかと感じておりました。高齢者の感染が増加し、徐々に重症者も増え、救急をはじめとして、医療負荷が大きくなっております。今後は徐々に軽症化し、風邪の一つとなって行くと思われていますが、オミクロン株の変異なども報告され、Covid-19との付き合いはあと数年かかるかもしれません。同調圧力の強い、日本の社会的特質から、Covid-19の影響は患者数が少ないにも関わらず、欧米以上と思われます。

このCovid-19の厳戒下に北京冬季オリンピックが開催されました。冬季オリンピックではアルペンが主役と思っておりましたが、いつの間にか、スノボなど私の知らないスポーツが主役となっておりました。医学では女性参画が盛んに叫ばれておりますが、高木選手など日本の女性陣の活躍が目立ちました。マスクミを通じて、日本各選手の奮闘を応援する内に、開催前にあれほど問題視されていたウイグルの人権問題など全く報道されなくなり視野から外れてしまいました。祝祭であるオリンピックの魅力でもあり怖さかと思えます。

さて、第48巻2号をお届けします。強直性脊椎疾患患者の胸腰椎骨折に大動脈損傷のリスクを検討した力の入った米本論文、ペンブロリズマブを含む集学的治療が奏効し、各再強調MRIが治療評価に有効であった進行尿路上皮癌例を詳細に分析した水田論文、Covid-19下にオンラインで開催された臨床研修指導医講習会の利点、問題、今後の課題を解説した石橋論文など読み応えのある3論文が掲載されています。

更に50周年を迎えるにあたり、大きな課題である埼玉医科大学の研究力アップを目指して昨年から開催されている、“オール埼玉医大 研究の日”の報告と特別講演1村上元先生による“主要組織適合遺伝子複合体クラス1の機能欠損によるドーパミン系以上と精神疾患様行動”、特別講演2 廣岡伸隆先生の“生活習慣を通じた疾病予防、健康寿命延伸、そして生きがいの醸成～健康施策の枠組みとヘルスリテラシーの活用～”を寄稿いただきました。昨年同様聴講学生の初々しい感想を掲載しております。

最後に24編の学内グラント報告を掲載しております。様々な分野の研究が埼玉医科大学で行われている事が見て取れ、今後花開くことが期待されます。読者の方も、研究への興味を抱いていただければ幸いです。

最後になりますが、2022年3月末を以て、編集委員長が交代となります。Covid-19に始まり翻弄された3年間の短い期間でしたが、皆様のご協力に感謝しております。投稿論文も増加傾向です。後任の編集委員長には海老原康博教授(国際医療センター臨床検査医学)が就任いたします。50周年を迎えるにあたり本雑誌の益々の発展を祈念いたします。

(菅澤 正)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第48巻 第2号

編集責任者 菅澤 正

令和4年3月16日 印刷

令和4年3月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作 レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町 809 番地の5 電話 (082)844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>